様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　21 年　5 月　15 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18560622
研究課題名（和文）　中・南部トスカーナにおける歴史的小都市と地域の形成に関する研究
研究課題名　（英文）Research into the small historical cities and the formative process of the territory in the middle and southern parts of Tuscany

研究代表者
野口　昌夫（Noguchi Masao）
東京藝術大学・美術学部・教授
研究者番号：90218305

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠
キーワード：都市史、イタリア都市形成史

１．研究計画の概要

本研究で調査研究の対象とした中・南部トスカーナの８地域について以下のような計画のもとに現地調査を行い、各地域の都市の古図、１９世紀の課税用不動産登記台帳、地籍図等を入手し、形成過程を分析する。

平成１８年度は「アルノ川上流域」を対象とし、1）ムジェッロ地方、2）アルノ川上流域・ヴァルダルノ地方、3）ヴァル・ディ・キアナ地方を調査した。

平成１９年度は「フランチジェナ街道沿い」を対象とし、4）エルサ川流域、5）クレーテ地方・ヴァルドルチャ地方を調査した。

平成２０年度は「ティレニア海沿い」を対象とし、6）メタリフェレ丘陵地方・エルバ島、7）マレンマ地方・オンブローネ川流域を調査した。

平成２１年度は「トスカーナ最南端」を対象とし、8）フィオーラ川流域を調査する。

２．研究の進捗状況

(1)　平成１８年度は上記１)、２）のフィレンツェ共和国が１３ー１４世紀に建設した５つの新都市を中心に、既存の城砦都市とどのような関係性を保持しつつ地域が形成されてきたかを、特に政治・軍事的側面と農業開発の側面とから明らかにした。上記３）では１６世紀のメディチ家のトスカーナ大公国支配後の湿地帯の埋め立てによる農地化の過程を明らかにした。

(2)　平成１９年度は上記４)、5）について、ローマとフランスを結びトスカーナを縦断するフランチジェナ街道が街道沿いの小都市と地域を交易による利益で繁栄させ、経済的に発展させていく中期後期の都市形成と地域形成の実態を明らかにした。

(3) 平成２０年度はティレニア海に沿った上記６)、７）の海港小都市が、地中海を舞台とした交易や制海権をめぐって建設され、１６世紀以降城砦化していく過程を追うと共に、後背地の丘上小都市が海港小都市とどのような関係性を保持しながら地域を形成してきたかを、この地域特有の鉱物資源の開発という面を含めて明らかにした。

(4) 平成２１年度はトスカーナ最南端にある上記８）について、ローマ教皇領に接する地域で教皇や枢機卿の強い影響下にあるという文脈の中で、フィオーラ川流域の奥地に形成された小都市がどのような政治的圧力の中で独自の機能を保持し、城砦化と共に特殊な地形状況の中に地域を形成させてきたかを明らかにする。

３．現在までの達成度

㈪おおむね順調に進展している。理由は１）今年度の調査を実行できれば、予定した対象地域とそれを構成する小都市のほぼすべてを終えるためである。しかし、各地域と小都市についての文献の翻訳、日本語に要約する仕事がまだ残っている。

４．今後の研究の推進方策

(1) 今年度は各地域と小都市について、報告書のための簡潔な文書化をする。
(2) 入手した図面を加工しつつ、各地域と小都市の図版、分析図等を作成する。
(3) 報告書をまとめつつ、次年度以降のトス

カーナ調査研究の方針を固める。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
野口昌夫、自著を語る５６『イタリア都市の諸相—都市は歴史を語る』、地中海学会月報３１４号、２００８年１１月、P6（査読有）

〔学会発表〕（計１件）
野口昌夫、「フィレンツェ共和国の計画都市−規模と構成、そしてシンボルとイデア」、日本建築学会歴史意匠委員会都市史小委員会シンポジウム：都市史研究の最前線（２００９年１２月１６日、日本建築学会建築会館発表決定）

〔図書〕（計１件）
野口昌夫、刀水書房、『イタリア都市の諸相−都市は歴史を語る』、２００８年、１６３頁

〔その他〕
野口昌夫，自著を語る『イタリア都市の諸相−都市は歴史を語る』、東京新聞、２００８年２月２１日